

事業名称	被災地からの発信・心の復興支援事業		
実行委員会	被災地からの発信・心の復興支援事業実行委員会		
中核館	福島県立美術館		
	住所	〒960-8003 福島県福島市森合字西養山1番地	
	TEL	024-531-5511	FAX 024-531-0447
	ホームページ	https://art-museum.fcs.ed.jp	
構成団体	あだたら高原美術館 青～ao～、美術館とまちづくり研究会、福島造形サークル、福島大学 H29 芸術文化クラス		
事業開始時点の課題分析	<p>東日本大震災後、福島県内において様々な分野で復興は進みつつあるが、文化環境については以下の課題があると考えていた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 物が調べられ、物理的に震災以前に近い生活が営めるようになったとしても、それに伴って精神的な復興が果たされたわけではない。とりわけ将来の福島県の復興を担う学生、生徒ら若い人たちの文化的環境をいかに調べ、芸術の力によって心の復興をもたらし、創造的な活力を生み出していくかは、地域の将来を見据えた大きな課題である。 2. 震災とその後の福島原子力発電所の事故から7年が経ち、少しずつ震災について語り、表現する活動が生まれてきている。どのように震災を捉え発信し、内外の多くの人と共にその意味を問い続け、共有していくことは今後も引き続き課題である。 		
事業目的	<p>地域の課題解決に寄与するような事業を、福島県立美術館の所蔵作品や美術鑑賞教材を活用して、地域の様々な団体と連携しながら実施することが本事業の目的である。</p> <p>地域の文化資源である美術館の所蔵品に触れ、感じ、自らの文化についてあらためて考えることは、心の復興に貢献するばかりでなく、自らのアイデンティティを確かめ、創造する力を生み出すことにも資すると考える。美術館は鑑賞の場であり、ひいては新たな創造力を育む磁場でもある。そうした文化資源を地域の人々に活用してもらう機会を提供して震災後の福島の文化の力を育てるとともに、文化芸術による心の復興モデルの一つとして地域外でも共有、参照が可能となるよう、展示等を通してその成果を広く知ってもらい、発信することを目的とした。</p>		
事業概要	<p>福島県立美術館を中心に、地域の団体（主に教育機関や教育関係者）との連携を強化しながら、福島の復興を担う人材の育成活動を中心に行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小・中・高等学校等において、福島県立美術館が開発、制作した美術鑑賞用補助教材を用いて、学生たちに鑑賞の楽しさを体験してもらい、創作へと繋げることで創造性を育む活動 2. 大学などの高等教育機関と連携し、福島県立美術館の収蔵品を活用しながら、鑑賞教育を実践できる人材育成を行う活動 3. 美術館の収蔵品を使い、鑑賞教材を実践活用する作品展示などを美術館で実施し、ギャラリートークやワークショップを開催し、事業の内容を更に深め、交流する場を提供して発信する活動 		

<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携 □イ ユニークベニューの促進 □ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館 ■エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信 <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> □ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成 □イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発 □ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施 □エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業 <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> □ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動 □イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>高校生が鑑賞教材を用いて美術作品に親しみ、その後、美術館で作品を鑑賞する中で、自ら作品の魅力を見だし、自身が感じたことや考えたことを言葉にして、他者と共有することができていた。また、作品同士を比較しながら、技法や作者の意図にも関心を寄せている様子が見られ、生徒自身が自分の想いや感情を表現する意欲を高めることができた。</p> <p>大学との連携では、これからの福島を担う学生が、小学生を対象に、美術館収蔵作品を元にしたワークショップを考え、実施したことにより、地域の文化資源を活用する意識を高めるとともに、美術作品の鑑賞教育を実践できる人材育成を行うことができたと考えている。</p> <p>本事業により、小・中・高等学校、大学、文化施設など教育や芸術に関わる人や、組織の連携が実施前より密になり、美術館を核とした震災後の福島県の文化振興と人材育成の推進に寄与することができたと考えている。</p>

【事業実績】

(1) 小・中・高等学校における美術鑑賞教材の活用実践

福島県立福島東高等学校 2 年生美術選択者 43 名と美術部の生徒が、「アートカード」を使って、テーマを考え展示作品の選定、展示プランの検討を行った。

企画に携わった生徒からは、「どの作品もテーマは“家族”で共通しているが、使われている色合いが違うだけで感じ方がまったく異なると感じた。これから、美術で絵を描くときは自分の描きたいことから使う色についてもっと考えようと思った。」「自分たちで企画に関わり、それがたくさんの人に見られるという経験は初めてだけど、改めて、どうしたら人が来るか、どう飾ったら人に感動させられるかということまで考えることはすごいことだと思った。」など、作品への鑑賞を深め、自身の制作に生かそうとする意欲や、美術館の仕事に対する関心を高めている様子がみられた。



(2) 大学における美術鑑賞教材を活用できる人材育成

福島大学人間発達文化学類の学生 21 名が、美術館の所蔵作品であるカミーユ・ピサロ作《エラニーの菜園》を元に、ドット絵のワークショップを考え、福島大学附属小学校 5 年生 105 名を対象に実施した。ワークショップ当日は、はじめに常設展示室にある作品を、作品が描かれた背景や作者について学芸員から聞きながら鑑賞した。その後、学生から活動の流れやシールの貼り方、注意点などを説明した。児童達は、作品から感じ取った色合いやイメージを元に、シールを貼りつけていた。途中、2階から作品を確認し、お互いにアドバイスしながら協力して制作を進める様子が見られた。完成した作品は、美術館エントランスホール、その後附属小学校玄関に展示した。参加した児童からは、「とても楽しかった」、「6 色のシールを貼っていくことで、色が変わって見えたり、別な色を作ったりすることができることが、一番すごいことだと思った。」「大学生がいてくれたおかげで、本物にも負けないような、すごくよい作品ができた。」などの感想があった。

ワークショップ 9月26日(水) 講師：学生21名 参加者：児童70名
27日(木) 講師：学生21名 参加者：児童35名
29日(土) 講師：学生2名 参加者：4名
30日(日) 講師：学生4名 参加者：10名

完成セレモニー 10月10日(水) 学生3名、児童103名

会場は福島県立美術館常設展示室、エントランスホール



(3) 美術館での作品展示等による、事業の深化と交流の場の提供

②収蔵作品の中からテーマを絞った2つの小さな展覧会「Gallery F 2019 コレクション再発見」を開催。1,973名観覧。

「アートカード★チャレンジ」

(1)の活動の成果展。来場者からは、「これまで見慣れた作品も、新たな視点で見ることができ、とても新鮮な体験だった。見慣れない作品に出会い、美術館のコレクションの奥深さを知ることができた。」「皆さんの思いがしっかり伝わってきた素敵な展覧会だった。」「学生がこのような展示を自分達で考えて企画すること、そして自分の考えを表現することができて本当に良いことだと思った。」などの感想をいただいた。会期中は、生徒によるギャラリートークを実施し、展覧会ができるまでの流れや、作品から感じたことなどを伝えた。参加者からは、「高校生の皆さんの素直な感想と作品が一致して、作品を楽しく見ることができた。」などと好評であった。



「福陽美術会 100年」

東京で活躍する福島出身の日本画家たちによって、1919年に結成された美術団体「福陽美術会」の活動と魅力を紹介する展覧会。

来場者からは、「県内、市内の作家が知れたので良かった」、「福島県にも美術界グループがあった事を知ることができた。取り上げられていた作家の作品をもっと見てみたい」など、地域の美術作家、そして活動への関心を寄せる感想をいただいた。

③ギャラリートーク

- ・「福陽美術会 100年」担当学芸員によるギャラリートーク 日程：2月10日(日) 参加者：15名
- ・「アートカード★チャレンジ」福島東高校生徒によるギャラリートーク 日程：2月24日(日) 参加者：20名
- ・「福陽美術会 100年」ギャラリー対談「東北の日本画家群像—秋田と福島を中心に—」 日程：3月2日(土) 参加者：30名



④ワークショップ「すきなもので自分の顔を描こう！」

2016年度に「被災地からの発信展」で出品した福島県出身の作家、坂内直美氏を招きワークショップを開催した。

会場：福島県立美術館実習室

日程：3月3日(日)

講師：坂内直美(画家)

参加者：8名

